

平成19年10月1日発行

沖縄県護国神社社報

うむい 八号



終戦記念日みたま祭り奉納演武

(琉球王家秘傳武術本部御殿手真武会)



「那覇太鼓」によるエイサー演舞（終戦記念日みたま祭りにて奉納）

社報「うむい」について

沖繩の言葉で「思い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

目次

宮司ごあいさつ「御旨承け畏みて」	3
護国神社この一年	4
お知らせ	6
御奉納一覧	7
永代慰霊命日祭祀新規申込者御芳名	8
永代慰霊命日祭祀御供奉者御芳名	8
新参集殿御造営奉賛金奉納者御芳名	9
社務日誌抄	10
ブログ発進のお知らせ	11
新任職員紹介	11
英霊の言葉・編集後記	11

「ごあいさつ」
御旨承け畏みて



宮司 伊藤 陽夫

平成十五年八月十五日に沖縄県民となり、昨年から当神社宮司役として毎朝の御日供祭、昼前の命日永代慰霊祭をはじめ諸祭祀が整ったのを見はからって、かねて心にかかっておりました、伊江島在住の大城和子さんを昨年暮れに訪ねてきました。この方は七十五歳で五体健全、記憶力・弁説ともに明晰で、今や観光客相手の売店で働いている名物ばあさんです。

終戦まぎわ、米軍の伊江島爆撃により城山を目指して共に逃げていた家族全員が殺され、自分ひとり生き残り、悲惨な戦後生活を生き抜いてこられた方なのです。米軍施設の戦災者収容所の金網から、毎日夕日の落ちる西空に向かって何日も何日も号泣し忍び泣きし米軍兵を悩ませ情

けをかけられた話をするとき、少女十四歳の時を彷彿とさせる涙顔でした。

その顔で、昭和五十年の皇太子・同妃殿下（現天皇・皇后両陛下）が伊江島御来島の際、思わず手を差し伸べ握手を交わしたときの清々しかった感動を、昨日のように語ってくれました。美ら島海洋博覧会の開会式セレモニーにご臨席の両陛下お召しの特別機が伊江島に着いたときのことです。

そのとき両陛下はまっ先に戦没者を祀る「芳魂の碑」に向かわれました。御親拝なさっている皇太子・同妃両殿下のお姿を、大城和子さんははじめて間近に拝して、「なんと美しい」と震えるような感動をおぼえたというのです。

「お父さんお母さんが、私の手を伸ばして握手したのだと思います」と語り、それまでの戦争にまつわる「うらみ」がぱーと心から消える思いがしたと晴れやかに、曇りない瞳で語ってくれました。童顔にかえった「おばあ」の顔が、実に美しく感じられました。

伊江島の滑走路は、あの爆撃後そ

こから米軍が攻撃機を飛ばす基地に使うため、県民戦災死亡者の残骸を埋めるように野原を滑走路にした跡地でした。お召し機が着陸まぎわに「滑走路の下には遺骨が埋まっておりません」との説明をうけられた両陛下は、タラップを降りられたのち、滑走路に向かつてお辞儀をされてしばらくお動きになられなかったと伝えられています。いまや今上天皇・皇后両陛下、昨年はサイパンを訪ねられ、慰霊の真心をお尽くし下さいました。あの万歳クリフに向かつての、祈りのお辞儀のお姿が報道され、私どもの目に焼き付いています。病に臥された昭和天皇が晩年、

思わざる病となりぬ沖縄にたずねてはたさむつとめありしを
と詠われたその大御心の遺志を継がれて両陛下は、皇太子時代お揃いで五回ご即位後三回に及んで行啓・幸行啓を果たされています。

その御旨を承け畏みて、当神社の宮司として落ち度なく毎日のご奉仕に勤しみ励む所存でございます。今後ともよろしくご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

護国神社この一年

「第四十八秋季例大祭」

平成十八年十月二十三日、第四十八回秋季例大祭が御遺族、崇敬者約五百人の参列のもと斎行された。定刻の午後一時、大祭開始を知らせる太鼓の合図とともに祭典が始まり、齋主 伊藤陽夫宮司代務者（当時）の祝詞奏上に続き、大祭委員長座喜味和則沖縄県護国神社会長、沖縄県遺族連合会仲宗根義尚会長がそれぞれ祭文を奏上した。

祭典には、靖国神社宮司を始め神社本庁統理、日本遺族会会長ほか全国各地から慰霊電報及び祝辞が寄せられ、御神前に大分県雲八幡宮秋永権禰宜によるみたま慰めの舞が奉納された。又、MOA山月光輪花の皆さんによる献華も行われた。



「大祓式」・「除夜祭」・「歳旦祭」の斎行

平成十八年十二月三十一日から平成十九年一月一日にかけて、「大祓式」・「除夜祭」・「歳旦祭」が斎行され、新しい年に向けての祈願が行なわれた。

また、御社殿前に設けられた特設スタジオから、恒例の民放ラジオの生放送が行われた。

正月三ヶ日の御社頭は昨年に引き続き二十二万五千人と県内一の参拝者で賑わった。



正月、参拝者で賑わう社頭の様子

「第四十九回春季例大祭」

平成十九年四月二十三日、第四十九回「春季例大祭」が齋主伊藤陽夫宮司のもと斎行された。秋季同様、約五百人の御遺族、崇敬者が参列し厳粛に祭祀が執り行なわれた。

祭典では、茶道裏千家淡交会沖縄支部よりお茶の奉納が行われ、大分県雲八幡宮秋永権禰宜によるみたま慰めの舞が奉奏された。また航空自衛隊那覇基地太鼓部による奉納太鼓も行われた。

「戦没者総合慰霊祭」

平成十九年六月二十三日（慰霊の日）、戦没者総合慰霊祭が齋主伊藤陽夫宮司のもと斎行された。正午の時報に合わせて黙禱がささげられ、御遺族多数が列席する中、祭典が厳粛に執り行なわれ、当社巫女によるみたま慰めの舞が奉奏された。



「終戦記念日みたま祭り」

平成十九年八月十五日正午より、神社、英霊にこたえる会沖縄県本部共催、沖縄県遺族会後援による「終戦記念日みたま祭り」が斎行された。齋主伊藤陽夫宮司の祝詞奏上、英霊にこたえる会沖縄県本部代表新門竹一沖縄県遺族連合会副会長の祭文奏上が行なわれ、最後に沖縄県護国神社座喜味会長により閉式の辞が述べられた。

尚、本年より東京で行われる全国戦没者追悼式のラジオ放送にあわせ黙禱し、引き続きの今上陛下のお言葉を拝聴した後、祭典が進められた。祭典終了後、境内に於いて直会を行い、「那覇太鼓」によるエイサーの演舞、「琉球王家秘傳武術本部御殿手」による空手の演武が披露され、各員の親睦がはかられた。



みたま祭り祭典終了後直会の様子



巫女によるみたま慰めの舞

「夏越大祓式」

平成十九年六月三十日、境内に斎場を設け、大祓式が斎行された。大祓詞に併せ大祓人形・古札をお焚き上げし、半年の厄を落とし、無病息災を祈った。

《お知らせ》

【辞令】

伊藤 陽夫殿
沖繩県護国神社の宮司に任ずる
平成十九年四月一日
沖繩県護国神社
代表役員 座喜味 和則

【新責任役員紹介】(敬称略)

五月二十五日に行われました責任役員会にて、次の方々が当神社の役員として改選されました。
代表役員(会長) 座喜味和則
副会長 一橋 勝己
専務理事(宮司) 伊藤 陽夫
常務理事(事務局長) 宮里 洋子
理事 嶺井 政治
理事 太田 政弘
理事 崎濱 秀平
理事 平良 勝男
監事 仲宗根義尚
監事 山城 政治

【訃報】

当神社責任役員太田政弘氏が去る平成十九年九月二十五日逝去されました。茲に生前の御功績に感謝申し上げ、心から哀悼の意を表します。

永代慰霊命日祭祀のご案内

当神社では、春・秋の例大祭を始め六月二十三日の「戦没者総合慰霊祭」、八月十五日の「終戦記念日みたま祭り」等種々の祭典を御奉仕し、戦争によって散華されたみたまをお慰め申し上げております。

また、各々の戦没者の御命日には神前にて永代慰霊命日祭祀を斎行致しております。

この永代慰霊命日祭祀は、御遺族からのお申し出により斎行されるもので、当神社では、沖繩県出身の戦没軍人・軍属並びに一般住民殉国者を始め、沖繩戦にて散華された本土



出身戦没者の御遺族方からの永代慰霊命日祭祀申込みを受け付けております。
申込み後は、御遺族へ前もって御案内申し上げ、命日に祝詞を奏上し、御祭神の慰霊安鎮と御遺族の御繁栄を祈念致します。
尚、永代慰霊命日祭祀申込み初穂料は二万円以上となっております。詳しくは、当社事務所(電話〇九八―八五七―二七九八)までお問い合わせ下さい。
神社への車輛乗り入れについて
当神社は奥武山公園内に鎮座しており、お車での参拝は公園入口ゲートを通過形となっております。現在、公園内は車輛の乗り入れや駐車が規制されており、神社との協約により参拝者の車輛は乗り入れてもよい事になっております。お車での参拝の際は、警備員にその旨を告げていただき「車両入園許可証」を受け、神社にて「用務先印」を押印下さいます様お願い致します。
※ゲート閉鎖時間
午前八時三〇分〜午後六時

(敬称略)

御奉納いただきました

寄贈図書(平成十八年九月〜平成十九年八月)

- 「神社本廳六十年誌」神社本庁発行
「沖繩縣神社廳三十年誌」沖繩縣神社庁
「いとけなき生命に光りを」三好誠著
最新祝詞選集 第二卷「特殊祈願祭祝詞」伊藤光祥発行
「お父さんへの千羽鶴」ときたひろし
(お父さんへの千羽鶴復普及会より)

御奉納品物

- 正面幕 (株)ジーマ、ジーマックス
正月参拜者用御神酒二樽 (株)ジーマ、ジーマックス
樽酒 龍華会
泡盛 久米島の久米仙

玉串料御奉納者名(社務日誌掲載以外)

- 宮里隆司様
伊藤清香様、穂香様
下條司様
橋谷勉様
石田節子様
櫻岡勝蔵様
原田房子様
伊藤さだ子様
諸星千代子様
岩本郁子様
七戸ヒサ様
岡田きよ子様
土屋公二様、美智子様
長崎 大様
中村行雄様
又吉眞興様
伊藤道海様
西本とよ子様

福井県居板井市

- 北海道札幌市
京都府向日市
埼玉県北本市
京都府宇治市
兵庫県神戸市
山梨県南アルプス市
兵庫県灘区
兵庫県神戸市
広島県広島市
東京都八王子市
沖繩県豊見城市
医療法人空と海とクリニック
岡山県苫田郡
沖繩市那覇市
埼玉県所沢市
三重県四日市市
北海道中川郡
大城ときを様
天野喜美様
齊田 真様
喜多要光様
上田明子様
半田ゆき子様
小澤久美子様
富田和雄様
坂口裕子様
岡本貞雄様
田中茂穂様

北海道川上郡

- 北海道川上郡
埼玉県さいたま市
埼玉県浦添市
相模興玉宮
福岡県福岡市
千葉県東金市
沖繩県中城村
沖繩県南風原町

御奉納ありがとうございます。

お知らせ
毎月第三日曜日
(沖繩骨董蚤の市振興会主催)

《これからの予定》

- 平成十九年十月二十三日 「第四十九回秋季例大祭」
平成十九年十一月十五日 「七五三祭」(十一月中受け付け)
平成十九年十一月二十三日 「新嘗祭」
平成十九年十二月三十一日 「大祓式」・「除夜祭」
平成二十年一月一日 「歳旦祭」
平成二十年一月三日 「元始祭」
平成二十年四月二十三日 「第五十回春季例大祭」
平成二十年六月二十三日 「戦没者総合慰霊祭」
平成二十年八月十五日 「終戦記念日みたま祭り」

永代慰霊命日祭祀新規申込者御芳名
 (平成十八年九月一日〜平成十九年八月三十一日)
 ・石川県金沢市 渡辺 アヤ様
 ・北海道札幌市 天野 喜美様
 ・東京都八王子市 山本 幸子様
 ・神奈川県鎌倉市 関 政子様
 ・東京都世田谷区 北田 和彦様
 ・沖縄県那覇市 伊志嶺幸子様

永代慰霊命日祭祀御供奉納者御芳名
 (重複掲載有り)

(平成十八年九月一日〜平成十九年八月三十一日)
 ・沖縄県浦添市 濱松 昭 様
 ・愛知県小牧市 橋本 かや 様
 ・沖縄県那覇市 仲村 致慶 様
 ・岩手県岩泉町 佐々木フユ 様
 ・佐賀県杵島郡 千綿 ミエ 様
 ・愛知県刈谷市 丹村 要二 様
 ・広島県呉市 渡辺 妙子 様
 ・沖縄県那覇市 高江洲愛子 様
 ・三重県四日市市 森 安吉 様
 ・岐阜県岐阜市 熊崎 つや 様
 ・和歌山県有田郡 西本とよ子 様
 ・長崎県島原市 松本 林 様
 ・長野県長野市 菅原 ヤスノ 様
 ・愛知県豊明市 平野 鈴 様

・沖縄県那覇市 高江洲愛子 様
 ・東京都武蔵山市 渡邊 三郎 様
 ・北海道札幌市 土橋 慶子 様
 ・北海道札幌市 豊川 栄子 様
 ・大阪府伊丹市 木本 進 様
 ・北海道札幌市 絹川美智子 様
 ・北海道余市町 木村シズ子 様
 ・福島県いわき市 渡辺 勝美 様
 ・沖縄県うるま市 中村 トミ 様
 ・北海道足寄郡 大竹口重幸 様
 ・沖縄県那覇市 屋良 朝正 様
 ・愛知県安西市 石垣 栄治 様
 ・神奈川県横浜 久保井淑子 様
 ・北海道古宇郡 澤田 政枝 様
 ・愛知県犬山市 吉野 幸雄 様
 ・北海道札幌市 鳴海美栄子 様
 ・北海道二世郡 服部 正春 様
 ・北海道千歳市 工藤 イク 様
 ・神奈川県鎌倉市 関 政子 様
 ・千葉県千葉市 布施 茂 様
 ・北海道札幌市 櫻井 朋子 様
 ・岐阜県岐阜市 江崎 明美 様
 ・北海道札幌市 桜田 スミ子 様
 ・石川県金沢市 渡辺 アヤ 様
 ・三重県津市 吉川 つや 様

・岩手県盛岡市 瀬川 淳 様
 ・三重県志摩市 杉木 茂樹 様
 ・北海道札幌市 長野 洋子 様
 ・北海道札幌市 古川 きみ 様
 ・北海道札幌市 天野 喜美 様
 ・北海道札幌市 鶴原 正規 様
 ・大分県玖珠郡 中島 美千代 様
 ・北海道雨竜郡 田中 英子 様
 ・北海道函館市 伊藤 和子 様
 ・北海道札幌市 竹川 チヨ 様
 ・埼玉県比企郡 福岡 英男 様
 ・神奈川県横浜市 高津 菊枝 様
 ・埼玉県鴻巣市 菊地 周一 様
 ・福岡県福岡市 大橋 温子 様
 ・岩手県花巻市 瀬川 タエ 様
 ・福岡県大牟田市 小柳 昌敏 様
 ・東京都八王子市 石上 順子 様
 ・山梨県甲府市 佐藤 ひでの 様
 ・滋賀県大津市 福永 博 様
 ・徳島県阿南市 幸田 かね 様
 ・北海道札幌市 北村 孝子 様
 ・神奈川県横浜 松本 敬子 様
 ・沖縄県石垣市 瀬名波 長宏 様
 ・北海道苫前郡 土田 千代 様
 ・愛知県一宮市 原 江つ 様

・広島県安芸郡 高橋 正明 様
 ・佐賀県三養基郡 立石 博義 様
 ・福井県喜多方市 田中 昭二 様
 ・愛知県豊橋市 小野 よし子 様
 ・滋賀県栗東郡 堀池 四郎 様
 ・茨城県取手市 大塚 幸男 様
 ・北海道札幌市 鳴海 美栄子 様
 ・愛知県一宮市 後藤 修士 様
 ・高知県南国市 西原 降稜 様
 ・東京都調布市 米澤 務 様
 ・大阪府大阪市 三木 ツネ子 様
 ・北海道江別市 田村 文雄 様
 ・兵庫県淡路市 荒川 文子 様
 ・徳島県徳島市 田中 静子 様
 ・愛知県豊橋市 牧 清 様
 ・大阪府堺市 恵 親也 様
 ・神奈川県横浜市 山本 太一郎 様
 ・熊本県熊本市 松尾 雪子 様
 ・北海道北見市 十良沢 義治 様
 ・愛知県名古屋 近藤 義文 様
 ・北海道札幌市 沼田 栄二 様
 ・石川県小松市 南出 春子 様
 ・三重県伊勢市 村井 重男 様
 ・愛知県稲沢市 川口 日出 様
 ・千葉県市川市 松永 修巳 様

・千葉県市川市 松永 利喜子 様
 ・愛知県岡崎市 内藤 はる子 様
 ・北海道網走郡 成田 静子 様
 ・東京都江戸川区 岡田 昌久 様
 ・岡山県津山市 石川 好藏 様
 ・愛知県海部郡 気田 一郎 様
 ・北海道函館市 佐藤 武司郎 様
 ・三重県伊勢市 外山 とめ 様
 ・岐阜県中津川市 岡山 孝平 様
 ・北海道中川郡 青木位様他4名
 ・沖縄県那覇市 与那嶺 文子 様
 ・静岡県焼津市 松田 まさ子 様
 ・北海道札幌市 川上 房江 様
 ・北海道函館市 福澤 一藏 様
 ・京都府八幡市 斉藤 金藏 様
 ・千葉県八街市 黒木 好仁 様
 ・愛知県津島市 加藤 恵一 様
 ・第三十二軍司令部 勇魂の碑遺族戦友会様
 ・東京都 岩井 富子 様
 ・愛知県稲沢市 下田 方子 様
 ・北海道札幌市 加藤 勤 様
 ・滋賀県甲賀郡 宿谷 長次 様
 ・宮城県黒川郡 菅原 義則 様
 ・那覇市首里 安里 貞子 様
 ・沖縄県中城市 宮平 オトメ 様

新参集殿御造営奉賛金奉納者御芳名
 (平成十八年九月一日から平成十九年八月末日までの御奉納者)

三十万 北海道札幌市 北海道沖繩会様
 五万 愛知県犬山市 吉野 幸雄様 (累計十万円)
 五万 神奈川県逗子市 一木 麟太郎様
 二万 北海道磯谷郡 下條 司 様
 一万 長崎県島原市 松本 林 様
 一万 福島県いわき市 渡邊 勝美様 (累計三万円)
 一万 神奈川県那覇市 中澤 恵子様 (累計三万円)
 一万 千葉県東金市 高山 友二様 (累計七万円)
 一万 福井県福井市 野阪 重信様 (累計三十二万円)
 一万 愛知県一宮市 後藤 修士様 (累計三万円)
 一万 神奈川県横浜市 濱田 榮一様
 一万 神奈川県横浜市 濱田 静江様
 一万 神奈川県横浜市 濱田 静子様

ブログ発進のお知らせ



護国神社のホームページを開設するに先だちまして、ブログを発進いたしました。神社の祭典や日々の社頭の様子などを記載しております。ぜひ、お読み下さい。

アドレス http://blogs.yahoo.co.jp/okinawa_gokoku

新任職員紹介



巫女 大城 美菜

今年の一月より奉職し、周りのあたたかいご指導のもと無事に半年を迎えることが出来ました。思えば全く新しい環境の中、分からないことだらけではありましたが、それ以上に学ぶことの方が多く毎日でもありました。今後も初心を忘れずご奉仕して参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



巫女 秋永 万岐

平成十七年の終戦六十周年記念臨時奉幣祭に「みたま慰めの舞」を御奉仕して以来、幾度か大祭奉仕をさせて頂きました。そのご縁で、この度大分県耶馬溪に鎮座する雲八幡宮(実家)より七月一日付にて奉職致しました。巫女舞などを通して神明奉仕に努めて参りますので、ユタシクウニゲーサピラ(よろしくお願ひします)。

社務日誌抄

(平成十八年九月〜平成十九年八月)

Table of shrine activities and festivals from September to August, listing dates, locations, and participating groups.

英霊の言乃葉

遺書

陸軍中佐 伍 井 芳 夫 命

特別攻撃隊第二十三振武隊

昭和二十年四月一日

沖縄慶良間海上にて戦死

埼玉県出身 三十二歳

親愛ナル満智子智子ヨ 才父サンハ 大東亜戦争ノ勝利ノ爲昭和二十年ノ春
特別攻撃隊第二十三振武隊隊長トシテ 日本男子ノ最大ノ譽ヲ得テ立派ナ戦果
ノ下ニ散リマス

才父サンハ 姿コソ見エナイケレド 護國ノ靈トナツテ 何時マデモ何時マデ
モ生キテ居リマス

満智子モ智子モ克ク才母サンノ謂ヒ付ヲ守ツテ立派ナ人トナリナサイ 弟ノ
芳則ヲ援ケテ軍人ノ遺族トシテ立派ニ成人シテ下サイ

才母サンハ 才前達ノ養育ノ爲 言葉ニ云ヒ表セナイ非常ナ苦勞ヲシテ来タノ
デス 大キクナツタナラ此ノ御恩ヲ忘レズ必ズ孝行シテ才母サンヲ樂ニシテ差
上ゲナケレバイケマセン

才父サン 才前達ノ成長ヲ見守ツテヨリマス 良ク勉強シテ立派ナ人トナリ
ナサイ 病氣ニナラナイ様体ヲ丈夫ニナサイ

昭和二十年三月九日

満智子 智子殿

【平成十七年五月靖國神社頭掲示】

父ヨリ

編集後記

・沖縄県護国神社社報「うむい」
第八号をお届け致します。

・最近、神前挙式を望まれる方が少
しづつですが増えています。芸能
人による挙式の影響も多分にある
と思いますが、伝統的な祭祀に対
する憧れと安心感も挙式が増加し
ている要因となっていると思われ
ます。

・そろそろ、形だけの幸福や豊かさ
を追い求めるのではなく、本当に
大切なものを探し、それを育て
いくことが必要な時期に来ている
のではないのでしょうか。

(K・Y)

発行 平成十九年十月一日

発行所 沖縄県護国神社

〒900-0026

沖縄県那覇市奥武山町四四番地

TEL〇九八-八五七-二七九八

FAX〇九八-八五七-七九一七

編集担当 加治 順人

印刷所 (株)うるま印刷